

佐田まちづくりだより

第117号



スマホでカラー版が見れます

山開き、神事開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされた「米神山巨石祭」。

未だ終息の見通しがつかないどころか、どんどん勢力を増し私たちを脅威の縁に追い詰めるコロナ。

そんな状況を見下ろすかの如く、悠然とそびえる霊山「米神山」。

神が宿るこの霊山には、あれからも、登山を楽しみに訪れる人が沢山見受けられます。

四月一日(土)、佐田京石において山の神の鎮魂と安全を祈願する山開き神事を開催しました。

早朝より役員、女性部の他参加して下さった総勢二名で京石周辺の草刈り、駐車場花壇の草取りなど大掃除を実施しました。



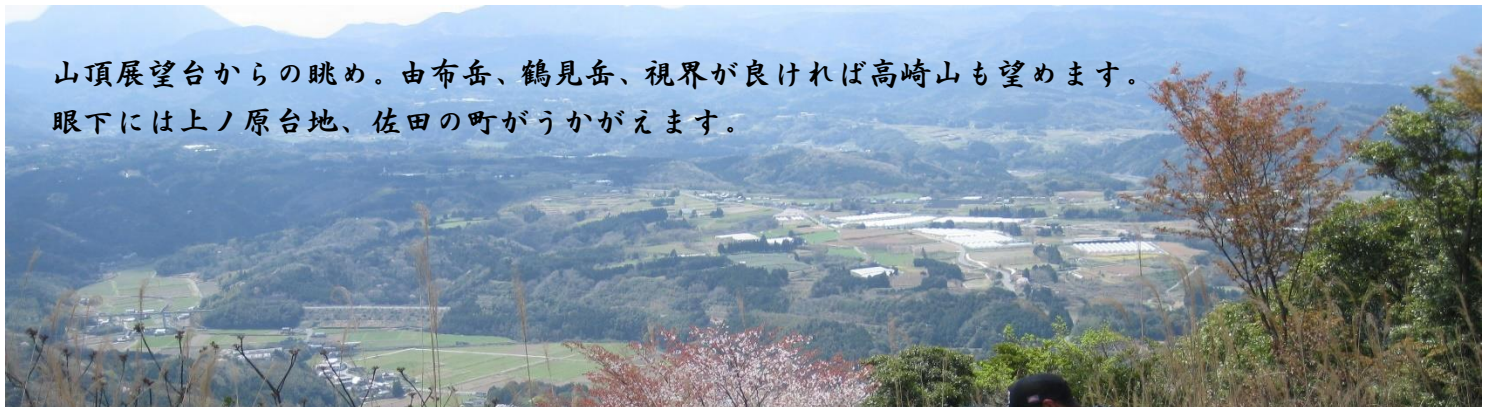
佐田地区の顔としてそびえ立つ「米神山」。
恥ずかしい思いはさせられない、来訪者に少しでも気持ちよく感じてもらいたい、そんな思いで清掃活動に取り組みました。
お蔭で普段より増して美しくなった佐田京石、祭典の準備も整い、宇留嶋、柳瀬両神官により、神事が始まり、清掃活動に従事して下さった方々にも参加していただき、肅々とそして滞りなく執り行うことが出来ました。
参加して下さいました皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。



しめ縄は、こしき岩とあわせて山蔵地区の有志の方々が作って下さいました。



山頂展望台からの眺め。由布岳、鶴見岳、視界が良ければ高崎山も望めます。眼下には上ノ原台地、佐田の町がうかがえます。



佐田小学校 佐田保育園 手作りマスク贈呈 まちづくり女性部

四月一四日(火)、佐田小学校、佐田保育園に手作りマスクを贈呈しました。(大分合同新聞四月一五日付にも掲載されました)

猛威を振るう新型コロナウイルスに対し、感染しない、感染させない、その手段の一つとしてマスクの着用が挙げられていますが、どこを探しても売っていないのが現状です。

そんな中、まちづくり協議会女性部が、子供たちを守りたい、何か施す手はないかと思ひ、企画したのが手作りマスクを贈るということでした。

賛同者は沢山名乗りを挙げてくれましたが、ここでもう一つの問題が発生しました。

作るうえで欠かすことのできないガーゼ等の資材までもが売り切れ状態ということでした。

材料にはさらしも有効とのことで、円照寺の宮川幸寛住職に相談したところ、快く寄付して下さいることに

なりました。感謝、感謝。

耳にかけられるゴムの不足も何とかクリアし、材料が揃った。そこからは凄かった。

自らの感染拡大防止の観点から、材料はそれぞれが自宅に持ち帰り、作成に着手、なんと三日程で目標数が出了上来り、公民館へと集まりました。



かわいいキッズサイズから4つのサイズを作りました

最初は、担当する数に後ずさりするような思いもしたらしいのですが、出来上がった感想を聞くと、「ほっとしたのと同時に、子供たちのために自分たちが少しでもしてあげられたことがうれしかった。」とのことでした。事務局をしていて、佐田の子に対する愛情と、佐田地区愛を感じることが出来て、本当に嬉しいことでした。

登山道整備

出来上がったマスクは、河野美重子女性部部长と河野恵子副部长と共に贈らせていただきました。

小学校、保育園それぞれで感謝の言葉をいただき、喜んでいただきました。

なお、今回マスクは大小小に加えて、とてもかわいいキッズ用の四つのサイズを作成しました。

もう一つ、加えてお知らせしたいことがあります。それは、マスクを贈呈し

た日にもう一方、小学校へマスクを贈られた方がおられることです。

敬老会の時に読み聞かせや頭の体操をしてくれた矢津の河野悦子さんです。

彼女は、一人思い立ち仕事や家事の合間を使ってコツコツ作成したそうです。

佐田地区には、温かい心を持った方が沢山おられて本当に自慢できる地区だと思います。

皆様ありがとうございます。

四月五日(日)、一四名の有志による米神山登山道の整備を実施しました。二班に分かれ、チェーンソーによる「月ノ神谷」周囲の木の伐採と、一五kgの資材を担いで、道中に階段を作っていく作業。約5時間の作業を事故無く完遂しました。



小学校、保育園から「ありがとうございます。」と謝辞